基幹系業務におけるシステムの方向性
―金融業界の基幹系業務システムの変遷などからの考察―

近年、企業が共同利用型のASP（アプケーションサービスプロバイダー）サービス（クラウドサービス）を利用する動きが盛んになっている。金融機関、特に証券会社も例外ではなく、近年では基幹系システムにもASPサービスを導入するようになってきた。本稿では、ASPサービスが普及してきた背景と、今後の基幹系業務システムの方向性を考察する。

金融業界の基幹系業務システムの変遷

今日、金融業界における基幹系業務システムは、自社保有のシステムだけでなく、クラウドサービスで提供されるASPサービスの利用や、ASPサービスをIT資産として買い取って自社システムに組み込んだ形で利用する動きが進んできた。米国における金融に関するシンポジウムを見ても、新しい技術やサービスの発表が一段落し、今後はASPサービスを導入する動きが本格的になっていくことが予想される。日本でもASPサービスへの関心が高まっており、金融機関に限らずASPサービスを利用する企業が増えている。

金融業界では、特に証券業界向けに複数のITベンダーから基幹系業務向けASPサービスが提供され、これまで大手を除く多くの証券会社が利用している。法制度の改定などにも、ITベンダーは証券会社と協力して着実に対応してきた。

2013年１月には野村證券が野村総合研究所（NRI）の証券ASPサービス「THE STAR」の利用を開始するなど、大手証券会社も基幹系業務システムにASPサービスを利用するようになった。これには、ITベンダーが証券会社のさまざまな要望に基づく機能追加や自主的な機能追加を進めたことで、大手証券会社の基幹系業務に適応できるまでに十分な機能が備わってきたことが大きな理由になっている。このような動きは証券業界に限らずさまざまな業界で進んでおり、ASPサービスの適用範囲が広がっている。

ASPサービスの利用が進む背景

ここで、システムの利用形態を「独自性」と「標準化」の観点から整理してみよう。

独自性について言うと、自社システムの場合は個別対応を自由にできることから独自性が高い。ASPサービスは個別のカスタマイズは可能だが、一定の仕様に縛られるため自社システムと比べて独自性は低い。しかし最近では、ASPサービスの部品利用（自社システムにASPサービスの一部機能を追加して利用する方式）や、前述したようにASPサービスの自社システムへの組み込みにITベンダーが応じる場合もあり、ASPサービスでもIT戦略に応じた独自性を機能ごとに確保することが可能になってきている。

標準化については、ASPサービスは多くの利用者への適用実績があることから標準化の

レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。すべての内容は日本の著作権法及び国際条約により保護されています。
Copyright © 2013 Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.

野村総合研究所
証券ソリューション事業本部
証券ソリューション事業二部
営業主任
武末和晃（たけすえかずあき）
専門は証券ミドルバックシステムの企画・導入、総合証券リテールチャネル戦略の立案支援

レベルは高い。これはASPサービスの部品利用、ASPサービスの自社システムへの組み込みの場合も同様で、ASPサービスの特徴とも言える。自社システムの場合は、個別の対応を実施していることからASPサービスと比べて標準化レベルは低いと言える。

特に金融業界の基幹系業務システムは、世代を重ねるつれて複雑化し標準化を困難にしている場合が多い。またメインフレーム（大型汎用コンピュータ）を抱えている企業では、技術者やプログラム部品の不足といった課題も顕在化しており、以前から基幹システムを新しいプラットフォームに構築し直すマイグレーションの必要が言われている。さらに、今日では経営戦略に対するITの影響度がますます強まっているため、グローバル展開や経営環境の変化に柔軟に対応できるシステムの確保が求められている。そのため、IT部門に対しては、ASPサービスも活用しつつ自社最適のシステムを組み上げる能力が以前に増して求められるようになっている。これらが、ASPサービスを利用する動きが加速する背景となっている。

基幹系業務システムの今後の方向性

経営戦略の実現に向けたスピーディーで柔軟なIT活用のためには、他社との差別化につながる戦略的業務と、独自性が求められない非戦略的業務とを分け、それぞれに応じたIT活用のあり方を考える必要がある。

金融機関の戦略的業務としては営業、融資、収益管理、リスク管理などの業務が挙げられよう。戦略的業務に係るシステムは高い独自性が必要になるため、自社システムを開発し運用することによって必要な機能を満たすのが普通であった。しかし昨今では、戦略的業務でもASPサービスを活用する条件が整ってきた。それはASPサービスを部品的に利用することや、ASPサービスを買い取って自社に合う形でパッケージとして利用することが可能になってきたからである。そのため、自社システムとASPサービスの組み合わせは効率的な機能強化策と言えるのである。NRIも、企業が自社の差別化要素を盛り込める形でASPサービスを提供している。また、自社システムのマイグレーションを実現する手段という意味でもASPサービスの利用価値は高い。

一方、税制対応やリスト照合など、差別化要素が少ない非戦略的業務に係るシステムは、実績があり低コストなASPサービスを利用することが効果的であろう。

今、そして今後ますますIT部門に求められることは、経営戦略に応じた柔軟なシステムを実現し、ITを活用して企業の独自性と効率性を生み出すための“デザイン力”である。自らもユーザー企業のIT部門からスタートしたNRIは、ITソリューションの提供とともに、これからもユーザー企業のIT部門強化を支援していく。 ■

レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。すべての内容は日本の著作権法及び国際条約により保護されています。
Copyright © 2013 Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.